

群 教 ゼ	G11 - 01
	平16.220集

## 活動の見通しをもつ力を

## 育てる指導の工夫

「みんなの声」カードを活用した係活動を通して -

特別研修員 須藤 義昭 (吾妻町立原町中学校)

### 《研究の概要》

本研究は、係活動の計画作りと振り返りを通して、目標に向けて見通しをもち活動する生徒の育成を目指す実践的研究である。生徒は他の生徒の声を係の話しに活用しながら具体的な活動の姿を見通しとしてもつ。そして活動中の見通しの修正や活動後の振り返りによる気づきについて「みんなの声カード」にまとめることで、次の活動に向けての課題に気付く。こうした活動を繰り返すことで見通しをもつ力が育つことを明らかにする。

【キーワード：特別活動 中学校 学級活動 係活動 見通し 振り返り】

### 主題設定の理由

本学級は中学1年、男子11名女子10名で、男女の仲がよく協力して活動ができる。中学校という新しい環境の中で、小学校からメンバーが変わらない安心感からか、生徒は学校生活全般であまり活発な活動ができていないように感じる。中学校でも集団の中で自分の役割を自覚し、周りとうい人間関係を築きながら自分の能力を十分に発揮した活動をしてほしいと考える。

1学期、生徒は「自分たちのクラスは自分たちでつくろう」という担任の話から自分たちの生活をよりよくしたいという願いをもち、学級に5つの係をつくり活動を計画した。しかし活動を見ていると活発に活動して新しい集団作りに役立つこともあったが、多くの係は思い描いたことを実行できなかつたり、実行しても途中でうまくいかずにあきらめたりしていた。生徒の活動を観察すると、やりたい活動は考えられ意欲も感じられた。しかし活動の計画では、活動を細かく考えたりして順序立てたりせず、分担や活動日時もはっきりしていないなどの不十分さを感じた。それでも実行する中でうまく対応していけるか助言しながら見守ってみたが、ささいな問題がうまく解決できず、思うようにいなくなり次第に活動意欲が薄れてしまい、活動が続けられない係もでてきた。

そこで活動を見通す力をつけることで、活動の計画段階で予測できる問題を解決したり前もって準備したりすることができれば、落ち着いて活動に取り組めると考えた。今後も生徒が集団として行事や部活動に、個人として学習や試験などに取り組む際にも先を見通す力は役立つと考えて本主題を設定した。

### 研究のねらい

「みんなの声カード」を計画作りや振り返りに活用することによって、実行可能な活動内容を考えたり、活動内容を順序立てて分担することができ、見通しをもつことの大切さに気づき、そうした係活動を繰り返し行うことで見通しをもって活動する力が育つことを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 学級活動 において、クラスの中で見通しをもって活動に取り組めた係をモデルとして自分たちの活動を振り返ることにより、目標に向けて活動するためには見通しをもつことが大切であることに気付くであろう。
- 2 学級活動 において、学級活動 での振り返りをふまえて全ての係が「文化祭」の合唱と演劇の発表に向け実行できそうな係活動を考えたり、「みんなの声カード」で係相互に励まし合わせたりすることにより、活動を見通しながら取り組む意欲が高まるであろう。
- 3 学級活動 において、期末テストに向けて一人一人の学力を高めるために、「みんなの声カード」を活用し、係としてクラス全体のテスト対策活動に取り組めば、見通しをもって活動する力が高まるであろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え

#### (1) 「見通しをもって活動する力」とは

実現性や必要性に照らして活動内容を考え、必要な活動を順序立てて分担し準備する力のことで、実現性・必要性が判断できる、活動内容を実現する上で必要な活動を把握し順序立ててや分担ができる、活動内容を実現する上で必要な物的人的な準備ができる、という3つの観点で考えることができる。(平成16年度長期研修員 金子直人氏の研究参考)

係活動においては具体的には次の3点である。

普段の学校生活の中から見つけた自分や他の生徒の願いを、実現性・必要性という視点で考え、係として活動するべきかを話し合いにより決定できること。

学級の生徒にとって価値のある活動にするために、他の生徒の願いをアンケートなどを利用して集約し、具体的な活動内容を話し合いにより決定できること。

活動計画の作成で、実現までに必要な活動内容を細分化して分担し、それをいつ(いつまでに)誰がするのか、またどんな道具や材料、人の助けが必要であるかなどをおよその数量や費用、名前などを含めて計画書に記載できること。また、その他に活動後の振り返りにおいて問題点に気づき次の活動に向けて改善策が考えられることも含める。

#### (2) 「みんなの声カード」

とその「活用」とは

具体的な活動をイメージして必要な項目を立てて計画するという力が十分でない学級の生徒の実態から、予め見通しを立てる手順の項目を記述したカードを使うことで計画作りを円滑に行い、活動を見通して計画する必要性に気付かせその力を育てることを考えた。カードは日頃から考えを表現することを得意としない現状を少しずつ変えていきたいという願いで「みんなの声カード」(資料1)とした。

### 資料1 みんなの声カード

みんなの声カード 年 組 名前		★振り返り 1.確認しよう・2.もう少し・3.いい・4.たまたまよい		
★係名	★活動名	項 目	評 価	理 由
★活動の目的(何のためにするのですか)		①目的を忘れず活動した	個人 係全体	1・2・3・4 1・2・3・4
★みんなの声 (関係のある声をもとめて、実現可能か考えてみよう)		②計画をしっかり立てた	個人 係全体	1・2・3・4 1・2・3・4
★活動計画(修正したことや気付いたことは赤で書き足そう) ○活動カレンダ―		③仲間と協力できた	個人 係全体	1・2・3・4 1・2・3・4
		④自分の責任が果たせた	個人	1・2・3・4
		⑤目的が達成できた	個人 係全体	1・2・3・4 1・2・3・4
○クラスの協力(クラスの人に手伝ってほしいこと)		★わたしの声 ○よくできたところ・よかったところ		
○必要なもの、道具(調達方法)		○うまくいかなかったところとその対策		
○活動の注意		○気付いたことや感想		
○係の約束		★クラスの声		
★わたしの声(活動前の願いや目標などを書いてみよう。)		★担任の声		

また、カードは個人で二つ折りにしてファイルし、活動中にうまくいかなかったことや気付いたことをその都度書き加えて今後の活動に生かすことで更に見通す力が育つように考えた。カードの内容構成については、項目とその意図を下表（表1）に示した。

表1 「みんなの声カード」に書かれている項目と項目設定の意図

左半分（活動計画作りに使う）*学級活動や帰りの会で活用する。	
項目	意 図
活動の目的	活動が成果を上げた姿をイメージすることで、活動に対して意欲をもったり活動の価値を考えたりする。
みんなの声	帰りの会などをで、他の生徒の願いや意見を聞く。友達の考えを知り、学級集団を意識した活動にする。
活動カレンダー	活動の内容・期日・担当をはっきりさせ、活動の具体的なイメージと活動に対する責任をもたせる。
クラスの協力	学級を集団と意識させて助け合う気持ちをもたせる。
わたしの声	これから行う活動に対する願いを書くことで活動への意欲につなげる。
右半分（活動の振り返りに使う）*帰りの会で活用する。	
項目	意 図
振り返り	活動に大切な5観点を4段階で評価する。自己評価の後、係全体（相互評価）の話し合いで振り返る。
わたしの声	活動の成功点と問題点、その解決策を明らかにすることで見通すための力をつける。
クラスの声	活動後帰りの会で、発表やアンケートで他の生徒の感想を集約する。自分の振り返りでは気付かなかったことに気付いたり、クラスの声としての称賛や感謝は次の活動への意欲になる。
担任の声	励ましや感謝を書いて次の活動の意欲付けをしたり、よりよい活動にするための指導や示唆を与えたりする。

## 2 全体構想図

【学校教育目標】 最後までねばり強く着実にやり抜こうとする態度の育成

【研究主題】 見通しをもって活動する力を高めるための指導の工夫  
「みんなの声」カードを活用した係活動を通して -

目指す生徒像	活動の場	主な手立て	検証の方法
見通しをもって活動する力が高まる。	<係活動>（昼休み・帰りの会） 「アイデアを集めて学力アップ」	係の活動計画の貼りだし 「みんなの声」カード	時中及び時後の発言の内容や活動の様子の観察 カードの記述
	<学級活動>【11月22日】「中間テストの振り返りを期末テストに生かそう」	中間テストの振り返りカード 保護者・先輩の助言	カードの記述 話し合いの発言
見通しをもちながら活動しようとする意欲が高まる。	<係活動>（昼休み・帰りの会） 「協力して感動できる文化祭にしよう」	「みんなの声」カード 係の活動計画の貼りだし	時中及び時後の発言の内容や活動の様子の観察 カードの記述
	<学級活動>【10月13日】「初めての文化祭をみんなで創ろう」	「みんなの声」カード 昨年の文化祭のビデオ	カードの記述 話し合いの発言
活動の見通しの必要性に気付く	<係活動>（昼休み・帰りの会） 「2学期の係活動を始めよう」	係の活動計画の貼りだし 「みんなの声」カード	時中及び時後の発言の内容や活動の様子の観察 カードの記述
	<学級活動>【9月1日】 「2学期の係活動を始めよう」	モデルの係の発表 「みんなの声」カード	話し合いの発言 カードの記述

【実態】学級の中でいろいろな係活動が停滞したり、十分な成果があげられないことが多かった。

### 3 実践の概要および結果と考察

考察は、学級全体及び抽出児A男の係活動の様子を観察、「みんなの声カード」における評価の数値と各項目の記述内容、学校生活における会話の内容、活動の観察をもとに行う。抽出児A男は物事に興味をもちやすいが、活動は自分の好きなことに偏り大ざっぱで意欲もあまり持続しない。1学期の係活動では班長に立候補するが他の生徒の支持が得られず、実際の活動でも自分の仕事の分担がわからず、友達から責任を持ってするように注意されることもあった。

(1) 活動の見通しの必要性に気付くことができたか。(学級活動)

#### ア 実践の概要

8月30日の帰りの会で、「みんなの声カード」の右半分を使い1学期の係活動の振り返りを行いまとめを発表させたところ、活動の目的があまりよく達成できなかったという係が多かった。そこで活動を充実させるためには、活動のスタートからゴールまでをイメージした計画作りが大切であることを担任が助言した。

9月1日に学級活動「2学期の係活動を始めよう」を実施した。1学期に最も見通しをもって活動に取り組めた係を発表のモデルに選び、事前に昼休みを利用して、計画作りに力を入れたことや計画書を活用しながら活動したことが学級全員に伝わるように具体的な様子を中心にした発表を練習した。授業ではその発表を他の生徒が聞き、活動を成功させるためのポイントをメモして発表し合った。その後係に分かれて2学期始めの活動について「細かいところまで見通す」ことを目標に計画を立てた。各係は係活動の実践後、昼休みに教師と振り返りを行い帰りの会で他の生徒からの評価を受けた。

#### イ 結果と考察

学級活動では、イベント系の発表を聞いた生徒の約88%が「計画の大切さ」を活動成功のポイントとしてメモしていた。その後の活動計画作りでは、どの係も活動計画に多くの書き込みが見られた。1学期の活動がうまくいかなかったある係では、活動計画の活動カレンダーの欄の書き込みが充実していた。(資料2)具体的な活動内容、活動日や担当者が記され、教師の助言を生かしてさらに詳しい時間や場所、注意事項、さらに活動後の振り返りについても書き加えることができた。計画作りの重要性に気付いたことが活動計画作りの意欲に結びついたと考える。

実際の活動では、ほとんどの係が壁に貼られた活動計画表や「みんなの声カード」により計画を確認する姿が見られた。また、2つの係では活動中に修正点の書き込みがされた。

活動後の振り返りでは、「計画がしっかりと立てられた」の項目を1学期と係活動後で比べると(図1)評価・相互評価で・担任評価のどれも上がっている。これは生徒も教師も活動において計画作りの充実を感じていることがわかる。

資料2 ある係の係活動の活動計画  
「みんなの声」カード

★係名	★活動名
スポーツ係	部活動新人戦報告会
★活動の目的(何のためにするのですか)	
○他の部活動のがんばりを知るため。	
○	
★活動計画(修正したことや後から気付いたことなども書き足しておこう)	
○活動カレンダー(日にちと内容)	
1/9(水) 発表用紙作成(○男, ○男)	
1/9(水) 発表用紙を配る(○子, ○子) ←朝の会で説明する	
1/9(水) 発表練習(係別)(○男) ←空いている教室	
1/14(水) 発表会(帰りの会, 教室)(全員) ←休んだ人がいれば、次の日	
1/15(木) 感想をまとめる(○男, ○男)	
1/19(月) まとめた感想をみんなに配る(○子, ○子)	
○クラスの協力(クラスの仲間に協力してほしいこと)	
発表のあと感想を書いてほしい	
試合に出ない人もみんなの様子をたくさん発表してほしい	
○必要なもの・道具(調達方法)	
紙A4(6枚), B5(21枚)	
もろし(1枚白)	
○活動の注意	
大きな声でしっかり発表してもらおう。	
静かに発表をさく。	
○係の約束	
自分の分担を責任もてる。	
★みんなの声(関係のある声をまとめたり、その声が実現可能か考えてみよう。)	
あまり難しい発表にしないほしい。(みんなにしてみたい)	
おもしろそう。	
★わたしの声(活動前の願いや目標など思ったことを書いてみよう。)	
他の部のことがおもしろいとおもしろいと思う。	

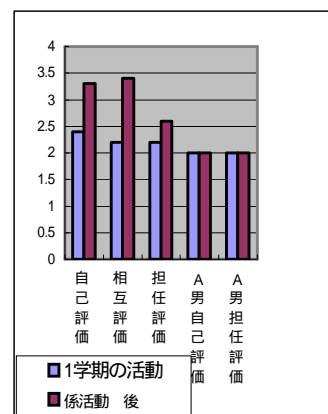


図1 「みんなの声カード」の「計画作り」の評価

抽出児A男は、学級活動 では「計画の大切さ」に気付くような記述が見られなかった。しかし係の仲間との実際の計画作りや活動を通して、係活動 の振り返り（資料3）では楽しく活動した様子がかがえ、「昼休みの練習」や「作戦会議」など計画作りで工夫した活動に関して記述している。自己評価（図1）では数値による高まりがかがえ、計画の重要性についての気づきと考えられる。また計画作りでは他の生徒の意見を聞く姿や計画書の文字の量が増えたことから活動計画を立てる意欲を感じた。

資料3 A男の係活動 振り返り

★わたしの声
○よくできた・よかったところ
・ ぼくは昼休みの練習ではすごく楽しかった。本番では泣いてしまった。
・ 作戦会議で1人の力がよかったです。（おかげでみんなよくできました）
○もう少し頑張りたいところ
・ ドッジボールで 中うしろ 1人だった。
○気付いたこと・感想
ドッジボールで 男が 3人 になってきた。すごく楽しかった。本番で 泣いてしまったけど、みんなで がんばった。作戦会議で 考えたときに はじめは 考えられなかったけど、少したって 考えられた。

以上のことから、普段の生活の中での意識付けや実際の活動での支援も含めて、学級活動で見通しをもって活動できた係の計画作りに視点をあてた発表を聞くことにより、生徒の多くが活動で見通しをもつことの必要性について気付いたと考える。

(2) 見通しをもちながら活動しようとする意欲が高まったか。(学級活動 )

ア 実践の概要

10月13日に学級活動 「初めての文化祭をみんなで創ろう」を実施した。文化祭で行われる合唱コンクールと演劇のビデオを10分程度全員で見た後で、どんな文化祭にしたいか意見を出し合ってから学級としての目標を決めた。目標達成のためにはどんな活動が必要か全員で意見を出し合った後、学級の係を「演劇班」と「合唱コンクール班」に大きく分けた。さらにその中を「台本」「演技指導」「道具」のように活動内容を分担した。話合で出された意見を生かし、ファイルしておいた係活動 の「みんなの声カード」を見ながら、活動計画を立てた。約3週間それぞれの活動をして文化祭を迎え、その後11月9日の学級活動で振り返りをした。

イ 結果と考察

学級活動 では、集中してビデオを見る様子から文化祭への関心の高さを感じた。「どんな文化祭にしたいか」の問いにも「クラスが一つになる」「見た人が感動する」「力を出し切る」など多くの意見が出された。文化祭実行委員を中心に普段よりも活発な話合が行われ、クラスの生徒の意見を反映した「協力してみんなで感動できる文化祭にしよう」と「頑張って入賞しよう」という二つ目標が決められた。

活動計画作りでは教師の指示もあり、前回の活動をまとめた「みんなの声カード」に目をやる姿や「何日にする」など「活動カレンダー」を活用する様子が多く見られた。係活動では教師に促されて行った見直しも、2つの係が自主的に行い、「材料費をどうするか」など活動中問題となりそうなことを担任に相談するなど解決に向けて取り組んでいた。

資料4 係活動 の振り返り

★わたしの声
○よくできた・よかったところ
・ みんなの声カードがすごく役に立って練習のしるい 言えた。
・ ○○さんが休んでくれた。
○もう少し頑張りたいところ
・ 本番で早くあがりたかったように 言えなかった。
・ 途中で早くはなれて 声が出なくなった人がいる。
○気付いたこと・感想
本番中は早くあがりたかった。本番が終わったときは、みんなよく頑張ったと思う。他のクラスもよくあがり、僕達も頑張った。3年生は、歌もよくあがった。

活動中は、「 の準備ができた」「明日は を練習する」など文化祭の取り組みの「計画」に関する生活ノートの記述が毎日数名見られた。また「活動カレンダー」をもとに、練習スケジュールを黒板に書いたり、演技指導係では「本番で休んだ人がいたらどうするか」などの見通しをもった意見が出された。文化祭当日、実際に欠席者が出てしまいこの準備が役立ち「よかった」という声が聞かれた。また同様に「みんなの声カード」の記述(資料4)から、

見通しの大切さを実感した生徒もいたことがわかった。

活動後の振り返りでは、本番中に指示が出せなかったもどかしい思いから、「本番中に指示を出す方法の必要性」をカードに記述した生徒もいた。(資料4)これは次の活動につながる成長と考えられる。係活動 後と係活動 後の「計画がしっかり立てられた」の項目を比べると、生徒の自己評価と相互評価はほとんど変わらないが担任評価は上がっている。具体的な活動の様子を成長と考え評価したものである。

抽出児A男は、「計画をしっかり立てられた」の自己評価は最高の4になっている。A男の中に「計画作りに自分も参加した」「計画通りに進むように努力した」という気持ちが読み取れる。A男から活動中に何度か聞かれた「おれがやろうか」「今日は するんだよね」という言葉や「みんなの声カード」の記述内容(資料5)から計画実行への意欲を感じる。また、カードには教師の支援を受けながら問題点とその解決策を記すことができた。(資料5)これらのことからA男の計画作りへの気付きや意欲の表れが見られると考える。

以上のことから、文化祭に向けて取り組んだ学級活動 と係活動 は生徒に見通しをもととする意欲をもたせるのに有効であったと考える。

(3) 見通しをもって活動する力が高まったか。(学級活動 )

ア 実践の概要

11月22日に学級活動 「中間テストの振り返りを期末テストに生かそう」を実施した。学習係が、中間テスト終了後に行ったの中の「学習の工夫」「学習に使ったもの」「気をつけたこと」「クラスで取組んでほしいこと」の項目の中から他の生徒に知らせたいものを選んで発表した。その後で各自が家族や先輩から聞いてきた「勉強法」や「テスト勉強で大切なこと」を出し合った。そして全員で目標を決め、各教科担当に分かれて期末テストに向けての活動計画を立てた。期末テスト前の10日間を活動期間とし、期末テスト終了後の12月6日の帰りの会で振り返りを行った。

イ 結果と考察

学級活動 の「中間テストの振り返り」では書き方や量に差はあるが全員の生徒が前記の4項目について回答していた。また67%の生徒が何らかのアイデアを聞いてきた。多少の差はあるがどの係も活動計画欄に書かれる活動内容も増え、活動順や分担、また準備についても実際の活動をイメージできていたことから今までしてきた計画作りが定着してきたことを感じた。(資料6)話し合ってもこれまでに比べて、一人の意見に対してすぐさま意見がもらえる生徒が増え

資料5 A男の係活動 の振り返り

★わたしの声
○よくできた・よかつたところ
・大きな声で いえたのがよかった。
・ 台本が 早く 終わったよかった。
・ 大きな声で 歌えたのがよかった。
○もう少し頑張りたいかつたところ
・ 台本 せえらぶとき 言葉ものが たいへん だった。(台本係で さいしょに 自分たちで 読んで もっと 教さへらす)
○気付いたこと・感想
練習では しゃべることばかり よく 覚える 水音 かつたけど、文化祭さいしょに 緊張 する だった。
お母さんに 話 せられた。(一生けん命 せいふ)

資料6 係活動 の活動計画

★活動計画 (修正したことや後から気付いたことなども書き足しておこう=赤)
○活動カレンダー (日にち・内容・担当など)
11/24 問題集づくり (1日にち) (2週間) 担当: 係長
11/25 計算問題のテスト (朝学習) (1日) 担当: 係長
11/26 文章問題のテスト (1日) 担当: 係長
11/27 難しい問題集の作り方の説明 (1日) (0男, 0男)
11/28 テスト 感想 発表 (1日)

★活動計画 (修正したことや後から気付いたことなども書き足しておこう=赤)
○活動カレンダー (日にち・内容・担当など)
11/24 まで もんだいを作る ( ) すぐ はいさき ( )
11/24 テストをする ( ) こまわりさく ( )
11/24 答え合わせをする ( )
11/25 もんだいを作る ( ) テストは ロゼ出してさき
11/26 テストをする ( )
11/26 答え合わせをする ( )

★活動計画 (修正したことや後から気付いたことなども書き足しておこう=赤) 関根
○活動カレンダー (日にち・内容・担当など)
11/24 身体作りと学習の準備(カード作り, せせり) (全員)
11/25 朝学習 壁紙(0男, 0男) (1日) 担当: 係長
11/26 朝学習 壁紙(0男, 0男) (1日) 担当: 係長
11/27 朝学習 壁紙(0男, 0男) (1日) 担当: 係長
11/28 期末テスト 感想 (1日) (0男, 0男)

て、話合も活発になったことから、見通すことの重要性が意識され、実際に見通しながら計画する力が育ってきたことが伺える。

抽出児A男は、実際の活動が十分行えるような活動計画を自力で見通すことは難しいが、話し合いに参加する態度から意欲をもち係の活動に取り組んでいることがわかる。活動の振り返りの記述内容(資料7)からも、自分が分担した仕事を責任もって行ったことや、この活動を3学期に生かそうとする意欲が読み取れる。これらは前回までのテストでは見られなかったことなのでA男の意欲の高まりと考える。

以上のことから、期末テストに向けた係活動について考え、活動する学級活動及び係活動により前回の意欲の高まりを維持し、活動において見通しをもつことの必要性が次第に定着してきたと考えられる。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

係活動において、見通しをもつ手順を考慮した「みんなの声カード」を参考に円滑な活動計画作りと次の活動につながるような振り返りを行うことで、生徒は見通しをもち計画することの大切さに気付き、計画作りに意欲を持つようになってきた。カードには自分の気付きや他の生徒の意見を書き込ませ、教師も励ましや今後の活動に示唆を与える書き込みをした。そのカードを手元に保存させ活動ごとに継続的に活用させたことは、活動に見通しをもつことを定着させるのに役立った。

### 2 今後の課題

本研究では、係活動の計画作りにおいて手順を項目立てた「みんなの声カード」を継続して活用することで「見通しをもつ力」を育てることを試みた。しかし、カードに関しては項目が多いため時間を十分確保してじっくり取り組ませないと「活動を見通す力」に結びつかないことがあった。もう少し項目を整理したり重点化する必要を感じた。またカードを一種類しか作らなかったため、カードになんとか記入する生徒がいる半面、必要な項目を自分で考えられそうな生徒見られた。生徒一人一人の「活動を見通す力」に対応するために発達段階をふまえた何種類かのカードを考えることも必要である。

### 参考文献

- ・明石 要一 著 『学級の集団的機能を見直す』 明治図書(2002)
- ・有村 久春 著 『“学級づくり”スタートブック』 教育開発研究所(2003)
- ・梅澤 秀監 著 『集団活動を活性化させリーダーを育てる実践事例集』 学事出版(2001)

### 資料7 A男の係活動の振り返り

★わたしの声
○よくできた・よかったところ
・国語と社会と英語がよく来た。
・テストはほんとは早く聞いた。
・○○(笑)とくわしく勉強するところをきいた。
○もう少し頑張りたいところ
・数学と理科が良かった。(もっとたくさん勉強したい)
・帰後と休んだ日があった。(おせ) (おせとやるように気をつける)
○気付いたこと・感想
国語と社会と英語がよく来た。とくに社会が良かった。また、早く勉強したからだと感じた。このテストはもっと早く勉強する。